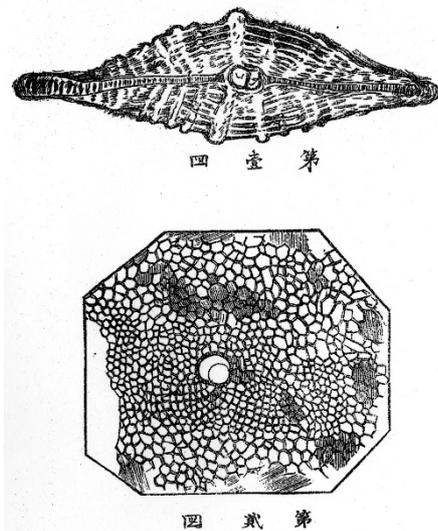


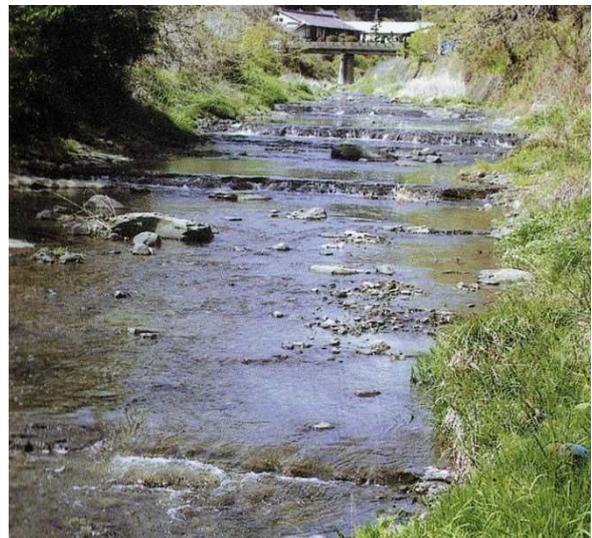
下仁田町で初めて命名された化石

大型有孔虫ネフロレピディナ・ジャポニカ

下仁田町では明治 30 年頃に、^{あぶだ いちのかや} 虻田、市野萱などで化石が見つかっていました(佐川榮二郎「荒船舊火山調査報文」)。虻田の有孔虫化石は其中で一番初めに詳しく調べられ、明治 39(1906)年に学会に新種として報告されました。当初はオルボイデスといわれましたが、その後、一般にはレピドシクリナと呼ばれてきました。正式な学名はネフロレピディナ・ジャポニカ[*Nephrolepidina japonica* (Yabe) 1906]です。



矢部長克(1906)の挿図<拡大図>



化石が見つかった地層(下仁田町虻田)

どんな化石? 有孔虫はアメーバなどの仲間の単細胞生物です。多くの有孔虫は大きさが 1mm 以下で、石灰質の殻をつくるのが特長です。しかし虻田の有孔虫化石は2~3mmと大きく、大型有孔虫と呼ばれます。また新生代中新世中期(約 1,600~1,400 万年前)を示す示準化石で、^{しじゅん} 暖かい海を示す示相化石^{しそう}でもあります。伊豆や丹沢では造礁性サンゴと一緒に見つかることもありますが、虻田からサンゴの化石は見つかっていません。

化石から何が分かるの?

今から約 1600 万年前頃の下仁田周辺には^{あねつたい} 亜熱帯の暖かい海が広がっていたことがわかります。



虻田石灰岩の顕微鏡写真

中新世中期は世界的に温暖な「中新世中期高温期」と呼ばれており、虻田の地層はその時代のものです。